

|         |     |
|---------|-----|
| 受 検 番 号 | 氏 名 |
|         |     |

令和7年度

神奈川県立中等教育学校入学者決定検査

# 適 性 検 査 Ⅱ

## (45分)

— 注 意 —

- 「はじめ」の合図があるまで、この検査用紙を開いてはいけません。
- 問題は **問4** まであり、1ページから8ページに印刷されています。
- 問題と **解答用紙** の **注意事項** をよく読んで、答えはすべて **解答用紙** の決められた欄に書きましょう。解答欄の外に書かれていることは採点しません。マーク欄をぬって答える場合は、選んだ番号の ○ の中をぬりつぶします。
- 解答用紙** には、表と裏の両面に氏名と受検番号を書きましょう。
- 字数の指定がある問題は、指定された字数や条件を守り、ていねいな文字で書きましょう。次の〔例〕のように、横書きで、最初のマスから書き始めます。段落をかえたり、マスの間をあけたりしないで書きます。文字や数字は1マスに1字ずつ書き、文の終わりには句点〔。〕を書きます。句読点〔。、〕やかっこなども1字に数え、1マスに1字ずつ書きます。

〔例〕

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 月 | の | 詩 | の | テ | ー | マ | は |
| 、 | 「 | 冬 | の | 朝 | 」 | だ | っ | た | 。 |

- 計算などをするときには、**解答用紙** ではなく、この検査用紙のあいているところを使いましょう。
- 「やめ」の合図があったら、途中でも書くのをやめ、筆記用具を机の上に置きましょう。

**問 1**

たろうさんとかなこさんは、国語で学習した日本語の「かな」について話しています。次の【会話文】を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

**【会話文】**

たろう 「もともと日本には文字がありませんでしたが、漢字が伝わったことで、それまで話していた言葉を文字で書き表せるようになったのですね。」  
かなこ 「【資料1】、【資料2】を読んで、昔の人が日本語を書き表すために文字のつかい方を工夫して『かな』をつくったということがわかりました。」  
たろう 「そうですね。また、【資料3】を読んで、現代日本語の中でカタカナが果たす役割についての理解が深まりました。」

**【資料1】**

(著作権の都合により省略)

(『学研ハイベスト教科事典 国語』<sup>きん だ いちはるひこかんしゅう</sup>金田一春彦監修より ※一部表記を改めたところがある。)

注1)いつわり：本当でないこと。

注2)漢文：漢字で書かれた中国の古い文章や、それにならって日本でつくった、漢字だけで書かれた文章のこと。

**【資料2】**

(著作権の都合により省略)

## (著作権の都合により省略)

(『玉川児童百科大辞典 国語』石黒修編より ※一部表記を改めたところがある。)

- 注1) 僧侶<sup>そうりよ</sup>：お坊<sup>ぼう</sup>さんのこと。  
注2) 経文<sup>きょうもん</sup>：仏の教えを書いた文や本のこと。  
注3) 覚え：ここでは、メモのこと。  
注4) かたわら：すぐ近くのこと。  
注5) 便宜<sup>べんぎ</sup>的：その場の都合がいいように取りあつかうこと。

### 〔資料3〕

## (著作権の都合により省略)

(『日本語の大疑問 眠<sup>ねむ</sup>れなくなるほど面白<sup>おもしろ</sup>い ことばの世界』国立国語研究所編より  
※一部表記を改めたところがある。)

- 注1) 出自<sup>しゅしつ</sup>：ここでは、その言葉が生まれた場所や環境<sup>かんきょう</sup>のこと。  
注2) 擬音<sup>ぎおん</sup>擬態<sup>ぎたい</sup>語：動物の鳴き声などをまねて表す擬音語と、ものごとの様子などを表す擬態語のこと。

(1) 〔資料1〕～〔資料3〕から読み取れる内容として、あてはまるものを次の①～⑤の中からすべて選び、その番号を書きましょう。

- ① 「かな」は漢字で「仮名」とも書き、仮名の「名」は名前のことである。
- ② ひらがなは、万葉がなの漢字をくずしたり、略したりして書くうちにできた。
- ③ カタカナは、はじめは文字というよりも、便宜<sup>べんぎ</sup>的なメモなどとしてつかわれた。
- ④ 江戸時代<sup>えど</sup>につかわれていた日本語の中で、外来語の数は現代に比べて多かった。
- ⑤ 現代では、外国語や外来語と、擬音<sup>ぎおん</sup>擬態<sup>ぎたい</sup>語や動植物名などをカタカナで書く。

(2) 万葉がなは、どのようにして日本語を漢字で書き表した字ですか。また、カタカナは、万葉がなからどのようにしてつくられ、現代では主にどのような役割がありますか。〔資料1〕～〔資料3〕の内容をふまえ、80字以上90字以内で書きましょう。

**問2** かなこさんたちは、社会科の授業で林業について調べ学習をしています。次の(1)、(2)の各問いに答えましょう。

(1) 次の【会話文1】を読んで、あとのア、イの各問いに答えましょう。

【会話文1】

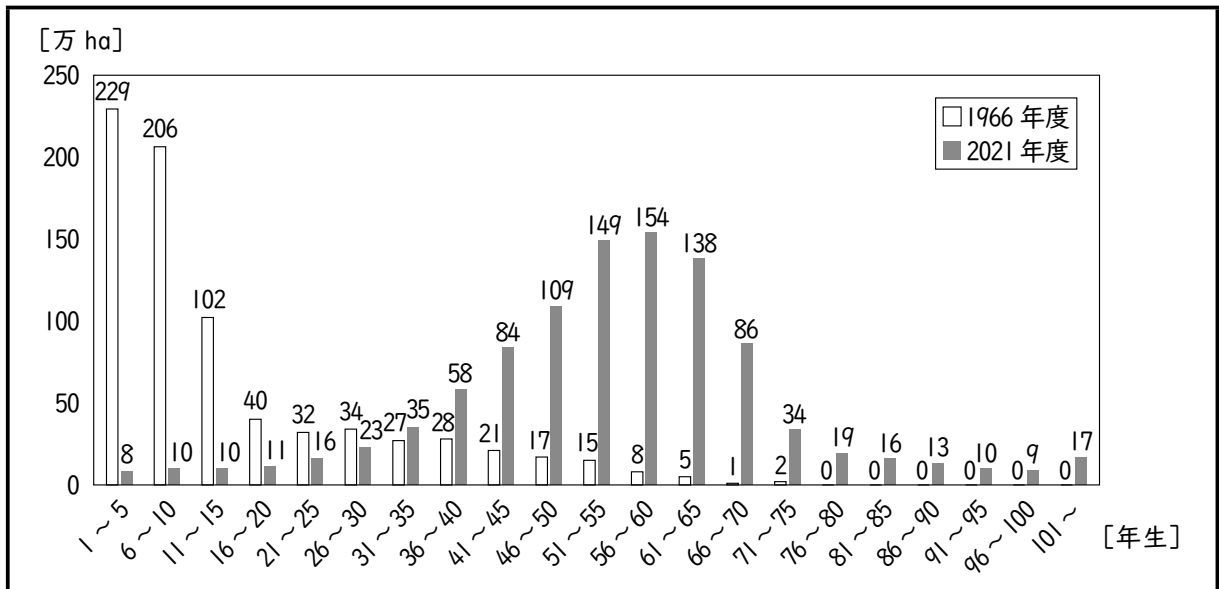
かなこ 「日本の森林の半分近くは人工林です。人工林の木は、植えた年を1年生として年数を数え、51年生になると切り始めるそうです。」

たろう 「【資料】から、1966年度は1年生～5年生の人工林の面積が229万haです。2021年度になると、1966年度に1年生～5年生だった人工林の面積は **あ** 万haになり、 **い** 万ha減っていることがわかります。」

ひかり 「そうですね。【資料】からは、人工林全体の面積に対する51年生以上の人工林の面積の割合も求められます。その割合は、小数第3位を四捨五入して百分率で表すと、1966年度は全体の面積767万haのうちの4%なのに対し、2021年度は全体の面積1009万haのうちの **う** %です。」

じろう 「そのとおりです。現在多くの木を切ることができるのは、何十年も前に多くの木を植えていたからなんですね。」

【資料】日本の人工林の面積（5年生ごと）



(林野庁「令和5年度森林及び林業の動向」より作成)

**ア** 【会話文1】の **あ**、**い**のうち、**い**にあてはまる数を、次の①～⑤の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 52                      ② 57                      ③ 75                      ④ 80                      ⑤ 91

**イ** 【会話文1】の **う**にあてはまる数を、次の①～⑤の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 3                          ② 5                          ③ 64                          ④ 76                          ⑤ 84

(2) 次の【会話文2】を読んで、あとのア、イの各問いに答えましょう。

【会話文2】

たろう 「授業では、1人で長い期間にわたって木を育てながら少しずつ木を切る、【小規模の林業の例】のようなやり方があることを学びました。」

かなこ 「わたしは、【小規模の林業の例】に従って人工林 50 haを管理する場合、1年間で、どのくらいの本数の木を切るのかを考えてみました。はじめに植えてある木がすべて 51 年生以上だとして考えると、1年間で切る木の本数は **あ** になります。」

じろう 「そうですね。わたしは、もし自分が 18 才から 60 才まで、【小規模の林業の例】に従って【設定】のような人工林 50 haを管理し、90 年生以上の木をできる限り多く残すようにすると、その本数はどうなるかを考えました。」

ひかり 「じろうさんが 60 才になる年まで管理し終わったとして、そのときに残っている 90 年生以上の木の本数について考えたということですか。」

じろう 「そうです。植えてある木がすべて育つものとして、43 年間で考えました。」

たろう 「そうすると、90 年生以上の木をできる限り多く残す場合、50 haに植えてある全体の本数のうち、90 年生以上の本数の割合は **い** %になりますね。」

じろう 「そのとおりです。林業は、何十年も先のことを考える必要がありますね。」

【小規模の林業の例】

- 1 haあたり 3000 本の木が植えてある人工林 50 haの作業を 1 人で行う。
- 51 年生以上の木だけを切る。
- 毎年、50 haに植えてある木の全体の本数のうち 2 %を切る。
- 毎年、その年に切った木の本数と同じ本数だけ 1 年生となる木を植える。

【設定】はじめに植えてある木の本数の割合

| 1 年生 | 11 年生 | 21 年生 | 31 年生 | 41 年生 | 51 年生 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 5 %  | 8 %   | 12 %  | 15 %  | 20 %  | 40 %  |

ア 【会話文2】の **あ** にあてはまるものを、次の①～⑤の中から 1 つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 60 本      ② 300 本      ③ 600 本      ④ 3000 本      ⑤ 30000 本

イ 【会話文2】の **い** にあてはまる数を、次の①～⑤の中から 1 つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 7      ② 14      ③ 16      ④ 24      ⑤ 28

**問3** たろうさんたちは、調理実習で作る料理について話しています。次の【会話文1】、【会話文2】を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

【会話文1】

たろう 「4種類の料理の材料と分量をかなこさんが調べ、材料費をわたしが調べたので、お互いに調べたことを確かめましたね。」

かなこ 「そうでしたね。わたしたちは、4人の班なので4人分の材料と分量を【メモ】にまとめました。じろうさんとひかりさんはどう思いますか。」

じろう 「ポテトハンバーグのツナの代わりにベーコンを使うことはできますか。」

たろう 「できます。ツナは1缶<sup>かん</sup>200円でベーコンは100gあたり160円なので、ツナ1缶<sup>かん</sup>の代わりにベーコン **あ** gを使えば、材料費は同じです。」

ひかり 「わかりました。ところで、4種類の料理の4人分の費用はそれぞれいくらですか。」

たろう 「材料の分量が半分のときは材料費も半分として、【メモ】をもとに考えると、4人分の費用は、ポテトサラダが510円、野菜スープが586円、ポテトハンバーグが680円、ジャーマンポテトが **い** 円です。」

かなこ 「そうですね。それでは4種類の料理の中から、わたしたちの班で作る料理を1人1票で投票して決めましょう。」

じろう 「どの料理がいいか迷っていて、1人1票では決められません。」

たろう 「それなら、【投票のしかた】で投票するのはどうですか。」

かなこ 「例えば、ポテトサラダ0票、野菜スープ2票、ポテトハンバーグ4票、ジャーマンポテト4票のように、1人10票で投票できるのですね。」

じろう 「1人10票あるなら、どの料理に投票するか決められそうです。」

ひかり 「では、【投票のしかた】で投票し、4人の票を1番多く集めた料理に決めましょう。結果は、じろうさんとわたしでまとめませんか。」

じろう 「そうしましょう。」

【メモ】4人分の材料と分量

|       | ポテトサラダ          | 野菜スープ           | ポテトハンバーグ           | ジャーマンポテト         |
|-------|-----------------|-----------------|--------------------|------------------|
| じゃがいも | 4個              | 4個              | 4個                 | 4個               |
| たまねぎ  | $\frac{1}{2}$ 個 | $\frac{1}{2}$ 個 | 1 個                | $1\frac{1}{2}$ 個 |
| にんじん  | $\frac{1}{2}$ 本 | 1 本             | $\frac{1}{2}$ 本    |                  |
| その他   | ベーコン 50 g       | ベーコン 60 g       | ツナ1缶 <sup>かん</sup> | ベーコン 80 g        |

【投票のしかた】

4人それぞれが、4種類の料理に投票した票数の合計が10票になるように投票する。

【会話文2】

かなこ 「【投票のしかた】で、みんなはどのように投票していましたか。」  
 たろう 「わたしの場合は、同じ票数の料理はありません。」  
 じろう 「わたしもです。かなこさん、ひかりさんも同じで、4人とも、4種類の料理で同じ票数の料理はありませんでした。【表】を見てください。」  
 ひかり 「【表】には、それぞれの人が4種類の料理に投票した票数を、多い順にしたときの1番めの料理に○、4番めの料理に●をつけました。」  
 じろう 「また、○がついている料理の票数は、4人ともちがいました。その票数は、たろうさん、かなこさん、わたし、ひかりさんの順に多かったです。」  
 たろう 「じろうさんがどのように投票したか、もう少し教えてください。」  
 じろう 「わたしの、○がついている料理と2番めの料理の票数の差は1票です。」  
 かなこ 「4人が投票した票数を料理ごとにみると、どうなっていましたか。」  
 ひかり 「料理ごとにみても、投票した票数は4人ともちがいました。」  
 たろう 「例えば、ポテトサラダの票数は4人ともちがうということですか。」  
 じろう 「はい。では、4人の票を1番多く集めた料理が、何かわかりましたか。」  
 かなこ 「4人の票を1番多く集めた料理は【う】で、その票数は【え】票ですね。」  
 ひかり 「そのとおりです。」

【表】

|     | ポテトサラダ | 野菜スープ | ポテトハンバーグ | ジャーマンポテト |
|-----|--------|-------|----------|----------|
| たろう | ○      | ●     |          |          |
| かなこ |        | ○     | ●        |          |
| じろう |        |       | ○        | ●        |
| ひかり | ●      |       |          | ○        |

(1) 次のア、イの各問いに答えましょう。

ア 【会話文1】の【あ】にあてはまる数を、次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 80      ② 125      ③ 160      ④ 180      ⑤ 225      ⑥ 320

イ 【会話文1】の【い】にあてはまる数を、次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 370      ② 420      ③ 470      ④ 498      ⑤ 548      ⑥ 598

(2) 【会話文2】の【う】、【え】のうち、【え】にあてはまる数を、次の①～⑧の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 11      ② 12      ③ 13      ④ 14      ⑤ 15      ⑥ 16      ⑦ 17      ⑧ 18

**問4**

かなこさんとたろうさんは、算数の授業で、マスのおおきさが同じで裏が白い方眼紙を使い、問題づくりをしています。次の(1)、(2)の各問いに答えましょう。

(1) 次の【会話文1】を読んで、あとのア、イの各問いに答えましょう。

**【会話文1】**

かなこ 「わたしの問題は、立方体の面にある矢印の向きや、立方体の展開図に矢印をどのようにかくかを考える問題です。まず、【図1】の黒と白の矢印↓、⇧がかいてある展開図を組み立てて立方体にします。そして、その立方体の黒の矢印を黒いシールでかくして、【図2】のように置きます。このとき、かくしてある黒の矢印の向きは、【図2】のA～Dのどれになりますか。」

たろう 「あ」です。」

かなこ 「そのとおりです。次は、【図3】の方眼紙を使って、立方体の展開図をつくります。ただし、つくった展開図を組み立ててできる立方体が、【図1】の展開図を組み立てた立方体と同じになるようにしてください。」

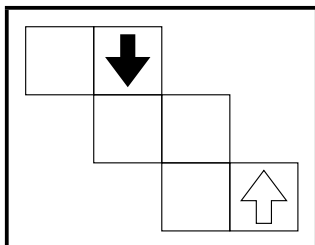
たろう 「白の矢印⇨を含めた必要な6マスを考え、黒の矢印をかいてから、不要なマスを切り取って展開図をつくれればよいですか。」

かなこ 「そのつくり方でいいです。その場合は、【図3】の方眼紙のE～Gのどのマスにどの向きで黒の矢印をかきますか。」

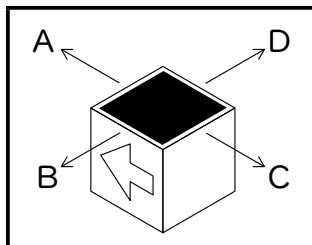
たろう 「い」となるようにかきます。」

かなこ 「そのとおりです。」

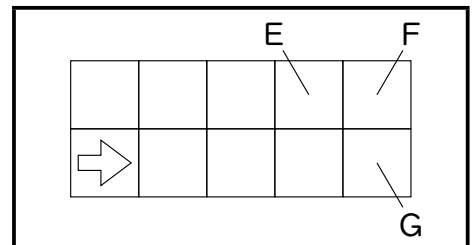
【図1】



【図2】



【図3】



ア 【会話文1】の「あ」にあてはまるものを、次の①～④の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① A                      ② B                      ③ C                      ④ D

イ 【会話文1】の「い」にあてはまるものを、次の①～⑨の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① Eのマスに→              ② Eのマスに↓              ③ Eのマスに←  
④ Fのマスに↑              ⑤ Fのマスに→              ⑥ Fのマスに↓  
⑦ Gのマスに←              ⑧ Gのマスに↑              ⑨ Gのマスに→

(2) 次の【会話文2】を読んで、あとのア、イの各問いに答えましょう。

【会話文2】

たろう 「わたしは、【図4】の白と黒の矢印⇧、⇩と4つの数字1、3、5、7がかいてある展開図を組み立ててできる立方体を5個使う問題を考えました。これらの立方体を【図5】の方眼紙の上に【ルール】に従って置くとき、その置き方を考える問題です。【例】は【ルール】に従って5個の立方体を置いた状態のもので、立方体を見る方向を示し、その方向から見える3つの数字を黒いシールでかくしています。」

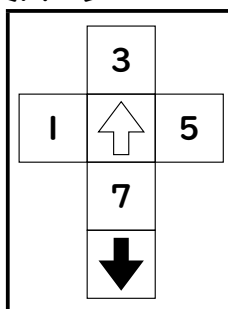
かなこ 「【例】の場合、黒いシールでかくした数字の合計は【あ】ですね。」

たろう 「そのとおりです。それでは、【ルール】に従い、5個の立方体の置き方を考えてもらいますが、【例】に示した方向から見える3つの数字の合計が11になる置き方は、全部で何通りありますか。」

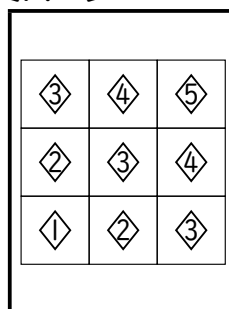
かなこ 「全部で【い】通りです。」

たろう 「そのとおりです。それでは実際に置いて確かめてみましょう。」

【図4】



【図5】

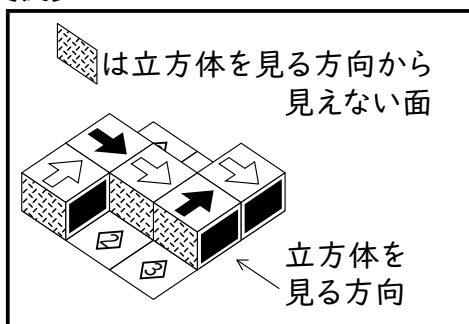


【ルール】

次の㉠～㉥に従い、5個の立方体を、【図5】の方眼紙のマスに合わせて、指定された色の矢印が真上から見えるように置く。

- ㉠ 1個めを、①のマスを、白の矢印が②のマスを向くように置く。
- ㉡ 2個めを、1個めの矢印が向いている②のマスを、黒の矢印が③のマスを向くように置く。
- ㉢ 3個めを、2個めの矢印が向いている③のマスを、白の矢印が④のマスを向くように置く。
- ㉣ 4個めを、3個めの矢印が向いている④のマスを、黒の矢印が⑤のマスを向くように置く。
- ㉤ 5個めを、⑤のマスを、白の矢印が方眼紙のない方を向くように置く。

【例】



ア 【会話文2】の【あ】にあてはまる数を、次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 5      ② 7      ③ 9      ④ 11      ⑤ 13      ⑥ 15

イ 【会話文2】の【い】にあてはまる数を、次の①～⑧の中から1つ選び、その番号を答えましょう。

- ① 1      ② 2      ③ 3      ④ 4      ⑤ 5      ⑥ 6      ⑦ 7      ⑧ 8

※問題は、これで終わりです。

このページには、問題は印刷されていません。

このページには、問題は印刷されていません。

